

オオヤマレンゲ

Magnolia sieboldii K.Koch ssp. *japonica* Ueda

モクレン科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

該当なし

選定理由

県内の生育地がきわめて限られており、現存する個体数もごくわずかな株数にとどまっている。全国的分布域からも貴重である。(現況:RO)

形態

幹は直立し、まばらに枝を分ける。葉は互生し、葉身は広卵形で、へりに鋸歯はない。葉の表面はなめらかだが、裏面は白毛が密生する。葉柄は有毛である。花弁はふつう6枚で倒卵形、雄蕊は、多数ある。

国内分布

本州(関東地方以西)~九州に見られる。この個体群は冷温帯に分布し、産地は点在していて少ない。

県内分布

南加賀区、白山高地区のブナクラス域に分布する。

生態など

高さ4mになる落葉低木である。開花期は5~7月。花は白色で、やや下向きに開き、よい香りがある。集合果は楕円形で不規則に膨れ、袋果は裂開して赤く熟した種子を下向きに垂らす。

生育環境

標高1400~1600mの山地に生育する。

危険要因

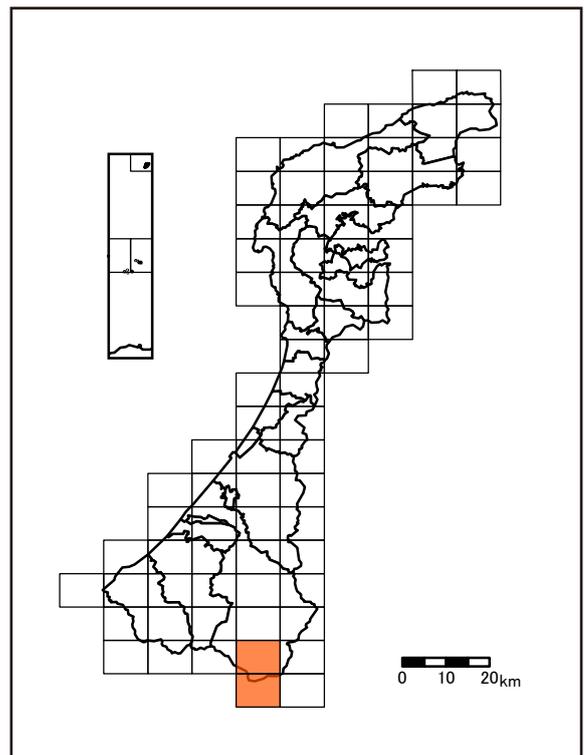
園芸採取、自然遷移、産地局限。

特記事項

従来からオオヤマレンゲとよばれて庭園に植栽されているものは、オオバオオヤマレンゲ(*M.sieboldii* K.Koch subsp. *sieboldii*)で朝鮮半島、中国東北地方南部の原産である。



白井伸和・2006年7月6日・白山



県内の分布